

4.2 ヒアリの見分け方

ヒアリの疑いがあるアリが発見されたとしても、それが本当にヒアリであるかどうかの判定には専門家による種の同定が必要となる。沖縄県内で疑わしいアリが発見された際には、行政や研究機関で簡易な確認を行った後、沖縄県内の専門機関に同定を依頼する流れとなっている。具体的な同定の流れについては、主に以下の3つのSTEPに分かれる。

STEP1 肉眼で見分ける：ヒアリの疑いがあるか？

→ 一般の事業者や市民でも可能

STEP2 ルーペや実体顕微鏡で見分ける：ヒアリ類(ヒアリやアカカミアリ)かどうか？

→ 地方自治体の職員、一般事業者でも可能(ヒアリ類に共通する3つの形質で確認する)

STEP3 専門機関による同定【ヒアリかどうか】

→ アリ分類の専門家や経験者が顕微鏡を用いて実施

4.2.1 ヒアリの見分け方

以下は、STEP1(実寸大やサイズで確認)およびSTEP2(ヒアリ類に共有の3つの形質)の見分け方。

<ヒアリ類の見分け方>

STEP1 肉眼で見分けられるヒアリの特徴

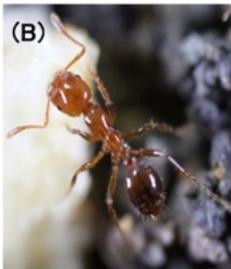
肉眼でわかるヒアリの特徴

(A) 体の大きさは2.5～6mm。
同じ巣の中に様々なサイズのアリが混在する。

(B) 頭と胸は赤く、腹部が黒っぽい。
体全体がツツヤしている。

(C) 塚状の巣を作り、巣をつくとたくさんのアリが一斉に出てくる
※塚は冬季の方が見分けやすい

(A) 体長 2.5～6 mm 

(B) 

(C) 

ヒアリの巣をつついた動画はこちらから！

<https://www.youtube.com/watch?v=OjdSIHw2WhE&feature=youtu.be>

STEP2 ルーペや顕微鏡で見分けるヒアリの特徴

以下の3つの特徴が全て当てはまる場合は、ヒアリ類の可能性が高い。

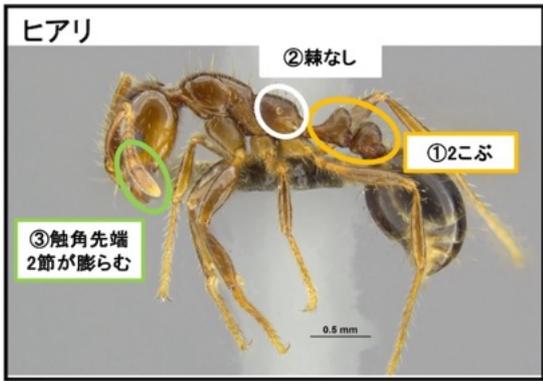
ヒアリ類(働きアリ)に共通する3つの形質

①胸と腹の間のこぶが2つ

②胸の後端に棘がない

③触角の先端2節が膨らむ

ヒアリ



②棘なし

①2こぶ

③触角先端2節が膨らむ

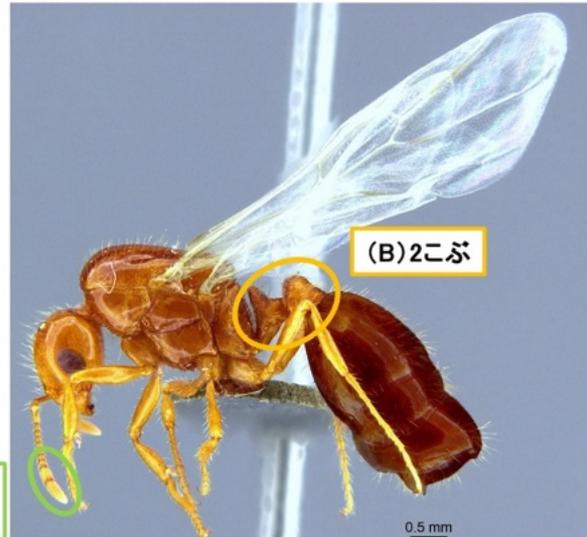
0.5 mm

4.2.2 ヒアリの女王アリ

<ヒアリ女王の見分け方>

ヒアリ(女王アリ)に共通する形質

- (A) 体の大きさは、7～8mm。
- (B) 胸と腹の間のこぶが2節。
- (C) 触角の先端2節が膨らむ。



ヒアリの女王は働きアリよりも胸部が発達し、体サイズが大きく、翅を持つことがある。翅を持った新女王は、次世代の巣を創るために翅で長距離移動し、単独で発見されることもある。沖縄では、上記3つの特徴全てがあてはまる場合はヒアリ女王の可能性があるので注意が必要。



4.2.3 沖縄に生息する間違えやすいアリとヒアリとの違い ※ヒアリとの違いは赤字で表記

オオシワアリ

沖縄に古くからいるアジア原産の外来種。樹上や土中に巣を作り、数匹で採餌する。まれに刺されるが人へはほぼ無害。

③触角先端3節が膨らむ
②棘あり
①2こぶ

肉眼で見た際にヒアリに類似しているが、色艶や動きが異なる。

実寸大 体長 3mm

アシナガキアリ

沖縄に古くからいるアジア原産の外来種。行列を作って採餌し、まれに高密度になる。動きが早い。蟻酸を出す人がへはほぼ無害。

②棘なし
①1こぶ
③触角先端の膨らみは不明瞭

触角や足が長く、良く見るとヒアリに似ていないが、目立つため通報が多い。

実寸大 体長 4mm

ツヤオオズアリ

沖縄に古くからいるアフリカ原産の外来種。行列を作って採餌する。非常に侵略的で本種が侵入すると他のアリがいなくなることが多い。毒針や蟻酸をもち人へは無害。

③触角先端3節が膨らむ
②棘あり
①2こぶ

体の大きさが大小2パターンある。

体長
働きアリ：2 mm
兵アリ：3.5 mm

実寸大

クロトゲアリ

沖縄県では在来種。農作地等で葉をつないでボール型の巣を作る。まれに高密度になる。非常に攻撃的で、人相手にも蟻酸で攻撃する(チクチクするが人へはほぼ無害)。

②棘あり
①1こぶ
③触角先端の膨らみは不明瞭

ヒアリとは色・形が異なるが、目立つため通報が多い。

実寸大 体長 5mm

※沖縄県の外来アリは、その多くが県内でアリの研究が始まった当初から生息しているものが多いため、世界的な分布状況から「外来種」として判断せざるを得ない。ここでの外来種・在来種区分は、前出の Ant map アントマップに従った。

アミメアリ

アジア地域に分布する在来種。決まった巣をつくらず、集団で移動する。

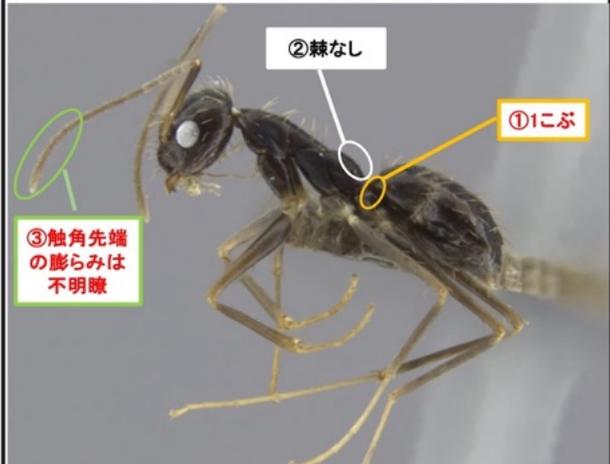


形はヒアリとは異なるが、集団移動してまれに高密度になるので目立つ。



ヒゲナガアメイロアリ

沖縄に古くからいるアジア原産の外来種。行列を作って採餌し、よく高密度になる。わずかに蟻酸を出すが人へは無害。

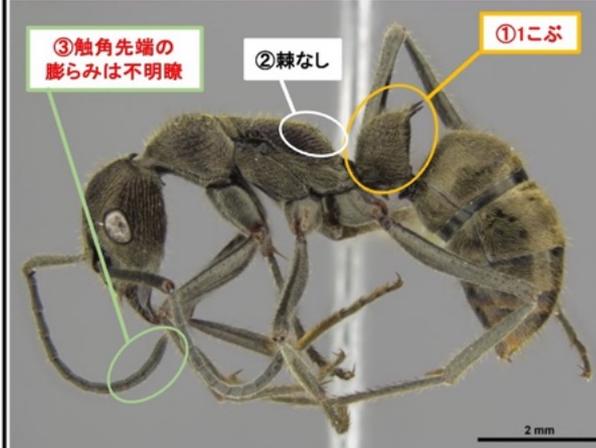


色形はヒアリとは異なるが、動きが早く高密度になるため目立つ。



トゲオオハリアリ

南西諸島に局所的に生息する在来種。土中に巣を作り、単独で採餌する。大型種。



色形大きさはヒアリとは大きく異なるが、毒針で刺して攻撃するので、刺されると混同すること。



ミゾヒメアリ

アジア原産の世界中に広く分布する外来種。



ヒアリと同様に様々なサイズの働きアリが混在する。



※沖縄県の外来アリは、その多くが県内でアリの研究が始まった当初から生息しているものが多いため、世界的な分布状況から「外来種」として判断せざるを得ない。ここでの外来種・在来種区分は、前出の Ant map アントマップに従った。